

# 平成20年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第6号（7月）

平成20年7月1日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並		
		穂いもち	平年並		
		紋枯病	やや少ない		
		白葉枯病	平年並～やや少ない		
		縞葉枯病	少ない		
		ヒメトビウンカ	少ない		
		ニカメイチュウ	少ない～やや少ない		
		ツマグロヨコバイ	平年並～やや多い		
		セジロウンカ	平年並～やや少ない		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	平年並～やや多い		
		果樹	ナシ	黒斑病	平年並
				黒星病	多い
シンクイムシ類	やや多い				
ハダニ類	少ない				
アブラムシ類	やや少ない				
カキ	うどんこ病			平年並～やや少ない	
	チャノアザミウマ			やや少ない	
	果樹全般 カメムシ類			平年並	

中国地方1か月予報（6月28日～7月27日・広島地方气象台6月27日発表）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

気温 

20%	30%	50%
-----	-----	-----

降水量 

40%	30%	30%
-----	-----	-----

日照時間 

20%	40%	40%
-----	-----	-----

低い（少ない）	平年並	高い（多い）
---------	-----	--------

葉いもち、水稻ウンカ類、果樹カメムシなどの最新情報をホームページ上に掲載しています。アクセスはこちら <http://www.jpnpn.ne.jp/shimane/>

### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 6月25日現在、巡回調査地点における発病株率は0.0%（平年3.0%）と少ない。

② 感染好適日は、6月第5半旬以降月末まで、のべ22地点と高頻度に出現しており（平年7.4地点）、潜伏感染が見込まれる（ホームページ葉いもち情報参照）。

③ 7月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

##### (2) 穂いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ①伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。  
 ②7月後半の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。
- (3) 紋枯病  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 ①6月25日現在、巡回調査地点における発生圃場率は2.8%（平年4.4%）、発病株率は0.2%（平年0.4%）とやや少ない。  
 ②7月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (4) 白葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県下常習発生地帯  
 発生量 平年並～やや少ない  
 予報の根拠  
 ①6月末現在発生を認めていない。  
 ②5月以降の積算降水量はほぼ平年並みである。  
 ③7月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。
- (5) 縞葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県下常習発生地帯  
 発生量（後期感染量） 少ない  
 予報の根拠  
 ①6月末現在発生を認めていない。  
 ②媒介虫であるヒメトビウンカの発生量は平年に比べて少ないと予想される。
- (6) ヒメトビウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 少ない  
 予報の根拠  
 ①予察灯での誘殺数は平年に比べて少ない。  
 ②6月下旬の巡回調査では、捕獲数は0頭（平年0.2頭/50株）、発生圃場率は0%（平年11.7%）で発生量は平年に比べて少ない。
- (7) ニカメイチュウ（第1世代）  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 少ない～やや少ない  
 予報の根拠  
 ①予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べて少ない。  
 ②6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は0%（平年6.1%）、被害株率は0%（平年0.4%）で発生量は平年に比べて少ない。  
 ③7月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (8) ツマグロヨコバイ  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 平年並～やや多い  
 予報の根拠  
 ①6月下旬の巡回調査では、捕獲数は2.5頭（平年3.6頭/50株）、発生圃場率は38.0%（平年40.2%）で発生量は平年並みである。  
 ②予察灯での誘殺数は平年並みである。  
 ③7月の気象は本種の発生に助長的である。
- (9) セジロウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや少ない～平年並  
 予報の根拠  
 ①予察灯への初飛来は、出雲市で6月18～19日に観察された。6月末までの誘殺数は平年に比べてやや少ない。  
 ②6月下旬の巡回調査では、成虫が0.3頭（平年6.6頭/50株）、圃場率は24%（平年66%）で発生量は平年に比べてやや少ない。  
 ③7月の気象は本種の発生にやや助長的であり、梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(10) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、6月末までに認められない。

② 6月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

(11) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 予察灯、粘着誘殺灯への飛来は、6月末までに認められない。

② 6月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

(12) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 6月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で1.4頭/10回振り、調査地点の22%（去年同期：1.3頭/10回振り・20%）で発生量は平年並みである。主要種はホソハリカメムシ、アカスジカスミカメである。

② 7月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 6月30日の巡回調査では、発病葉率は7.4%（平年8.7%）であり、発生量は平年並みである。

② 7月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

① 6月30日の巡回調査では、発病葉率は1.1%（平年0.3%）であり、発生量は多い。

② 7月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

① ナシヒメシンクイ第1世代雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや早く、総誘殺数はやや多い。

② 7月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

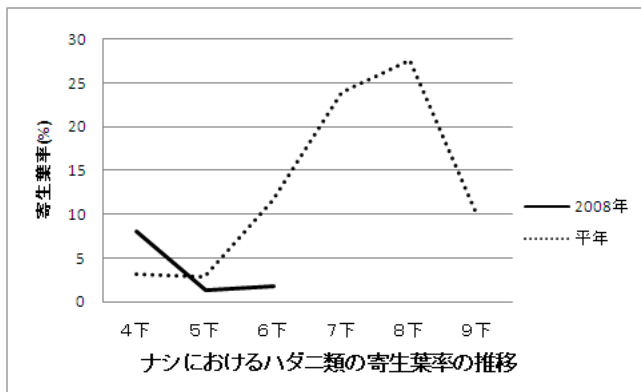
発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

① 6月巡回調査では寄生葉率1.7%（平年11.5%）でやや少ない。

② 7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。



(5) アブラムシ類

予報内容

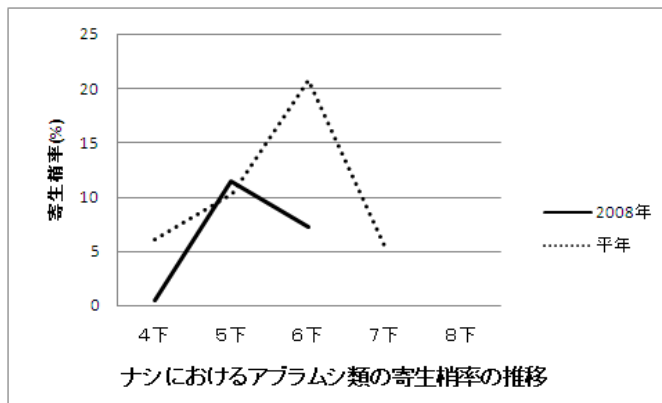
発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月巡回調査では寄生梢率7.3%（平年20.8%）でやや少ない。

② 7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

① 6月25日の巡回調査では、発病を確認していない。

② 7月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年に比べてやや少ない。

② 7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般（カキ、ブドウ、ナシ等）

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下果樹栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 露地圃場に設置した予察灯での6月までの誘殺数は180頭（平年238.7頭）で平年並みである。

② 7月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。